

連載企画

ぱれっと中期計画策定に向けて②

中期計画と題して策定委員会がスタートしましたが、9月12日の第一回目の委員会では、そもそも中期計画なのかビジョンを描くことなのかの議論になりました。5年前、ぱれっとの拠点づくりに向けての移転を契機に、地域に根差すための目標スローガンが掲げられた経緯があります。拠点ができたことで組織に何か変化がもたらされたのか、次回の全体勉強会で、まずは検証が必要ということが確認されました。

改めて、ビジョンがなぜ今必要なのか？ビジョンとはいいかに創られるべきなのか？ビジョンは誰のものなのか？ビジョンはいつのタイミングで創ればいいのか？自分自身や共に働く仲間、組織に関わる全ての人々（ステークホルダー）に活力を与えてくれるビジョンとは何だろうか、策定委員会での論議となりました。

●第一回策定委員会振り返り

前回の委員会では、「当たり前」の捉え方が時代とともに変化してきている話をしました。働き方や暮らし方、支援の多様化、法制度の進歩等、選択肢が増えたこともそうですが、本人を取り巻く福祉環境だけではなく、本人自身の意識の変化も特徴として挙げられます。与えられる暮らしから本人自ら声を出し望んで得る暮らしへと変わってきています。ここから「その人らしい生き方」へと、個人尊重した支援の在り方にシフトしてき

ています。ぱれっとで新しい拠点づくりに向け掲げたスローガンの中に、「新しい生き方を見いだせる拠点」とあります。この中には、多様な人ととのつながりの中から自分らしい生き方と選択の創造が含まれます。

ぱれっとの35年の変遷を振り返って見えてくるのは、時代のニーズに即した事業展開を行なってきたと言うことです。会議では「余暇」「就労」「暮らし」「国際」この4つの事業カテゴリーをテーマに、以下の3つを大事にし、これからも事業を続けていくことを再確認しました。

1. ぱれっとを知る人を増やしていく
2. 新しいことを創造し広げていく
3. 制度ではなく人どうしが支える地域社会づくりを目指す

こうしたビジョンを持ちながら、ぱれっとの理念である「障がいのある人たちが直面する問題の解決を通して、全ての人が当たり前に暮らせる社会の実現」を目指してきた歴史があります。

●支援する側・される側の幸せ

福祉業界での一番の課題に人材確保が挙げられます。先月号つうしんから特集記事として掲載していますが、支援者側の報酬、休日の保障、精神的ケアといった、働く側の労働環境整備に視点を当て

た業務の見直しが迫られています。求人を出しても中々応募者がいない状況での人材確保の難しさ、定着・育成まで至っていないのが現状です。

利用者の支援の在り方を優先しがちで、支援者の体力的・時間的負担の下に当事者の当たり前の生活が成り立っていることに、福祉の仕事離れ現象がおきているような気がしてなりません。両者の幸せが成り立った上での福祉の仕事が理解され人が集まってくれるように思います。支援する側に気持ちの豊かさが生まれないところで、障がいある人たちと思いを共にした支援は難しいような気がします。

「福祉」や「支援」という発想だけではない支援者も幸せになれるような、ぱれっとらしい福祉の捉え方をしたいと、策定委員会のメンバーからの思いが伝わってきました。

●中期ビジョンを全体会で描く

ビジョン策定に向け、ステークホルダーと共に勉強会を開きながら協働作業を行なうことをコンセプトにしています。ぱれっととかかわりのあるボランティアや理事、親の会の方からの客観的視点は、ぱれっとの事業が第三者にどう映っているか浮彫りにされます。事業そのものの方向性や利用者へのサービス・スタッフの質、人間関係等、直接的な意見が聞けることは、組織運営上必要と考えます。

ぱれっとで活動する中で、支援者にもニーズは当然あります。それは、一つに動機であったり希望・要望であったりします。ニーズと現状を照らし合わせ、未来を描くことが、全ての人にとっての幸

せにつながると考えます。

●現場スタッフの声を反映

中期ビジョンのイメージづくりには、自分たちがどういった理想が描けるかが5年後のビジョンを描くポイントとなります。一昨年から現場スタッフだけによる勉強会を開いています。各セクションのトップは一切関わることではなく、現場どうしの思いを語ることで、これからのはれっとを自分たちの意思でどうリードしていくか、思いを寄せる機会となり、組織運営を彼ら自身で考える場となっています。中期ビジョンを描く上で、彼らの意見を直接反映させられる策定委員会にもなってきています。今年1月の全体会に向け、ステークホルダー各々のかかわりから、自分の思いを語る時間を持つ場とすべく議論を重ねています。

- ・参加者自ら声を出せる場
- ・なぜ自分はぱれっとを選んだのか
- ・ぱれっとで自分は何を得ているか

以上の3つのテーマから、お互いの新たな気づきがあるような全体会になればと思います。ぱれっとでのかかわりには人によって経験に差があります。短い期間であってもベテランには思いもよらない気づきがあります。お互いの疑問を出しながら人間関係を深めつつ、立場を超えて交流を図りながら、今年7月にはビジョンの策定を目指していきます。

（理事長 相馬宏昭）